

府中市健康地域づくり審議会第22回長寿サポート分科会 報告書

○日 時：令和2年2月18日（火）19時から21時10分

○場 所：市役所2階第一応接室

○出席者：今 川 智 巳（分科会会長） 田 中 玲 子（分科会副会長）
多 田 敦 彦（分科会委員） 小 林 弘 治（分科会委員）
藤 原 洋 子（分科会委員） 宮 後 志 保 美（分科会委員）
山 中 香 （分科会委員）

○事務局：村上明雄副市長 唐川平健康福祉部長
山路英利介護保険課長 石口由美介護保険課係長
真田公子主任 内海瑠里果主任技師
皿田敏幸医療政策課長

○協議事項

(1) 長寿サポート分科会の活動について

- ① 令和元年度分科会の施策(期末評価)
 - ・高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり
 - ・人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発
 - ・「支える医療」の中核づくり
 - ・今後、新たに有効と考えられる施策
- ② 令和2年度分科会の施策

(2) 報告事項

- ① 第8期介護保険事業計画について
- ② 第7期介護保険事業計画の進捗状況について

○主な意見

(1) 長寿サポート分科会の活動について

- ① 高齢者の在宅生活を支える仕組みづくり 生活支援体制整備の推進
 - ・南部圏域での生活支援コーディネーターの役割についてよくわからないどのような取り組みをされているのだろうか。
- (行政から活動内容について)

南部圏域では元気もりもり体操の通いの場へ行政保健師と同行で手向き、いろんな課題やニーズ、意見等情報収集するとともに、地域の困り事や課題から支えあいの仕組みづくりにつながるようグループの中で話し合いができるようコーディネーター

が中心になって進めている。

地域を周りどのような地域資源があるか情報収集し町内会毎にまとめている。

生活支援コーディネーターは府中市全域を担当している 1 名と北部圏域を担当している 1 名とで計 2 名配置。

② 人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発 在宅看取り促進に資する住民啓発

- ・在宅での看取りいちばんよいと思うが介護負担が大きくなると施設入所を選択せざるを得ない状況がある。本人の思いというよりも、介護負担から家族が施設入所を選択しており、在宅での看取りの決定は介護者の思いが大きく関係すると感じる。

- ・在宅介護の負担が少ない時家族は在宅看取りを選択しているが、重度化して介護負担が大きくなったとき以前の選択について家族は記憶していない。

- ・40 歳代、50 歳代に対して介護者になるという意識を持てるような啓発等の取組が必要。若い人は実感がないかもしれないが現実的に介護が必要となったとき再度その話を聞くと理解しやすいのではないかな。

- ・医師との連携があったとしても在宅看取りは大変だと思う。

- ・訪問介護サービス利用により排泄介助等知識を得ることができる、最後まで気持ちよく看取れるためには、家族と医療・介護等の専門職種との連携が大切、地域で過ごしているという考えも必要。

- ・啓発の対象者と時期を絞ることで目標を達成がしやすくなるのではないかな。

(行政として「ACP」についての家族等への啓発について)

- ・行政として在宅看取りに対する介護保険サービス体制づくりの必要性を感じている

- ・家族に対してきっかけ作りが必要と考えている。介護がいるようになってからではなくできるだけ早いうちから、また、65 歳の介護保険被保険者証発行時の啓発の実施を予定。

- ・若い年代に対して、企業に出向いての啓発を考えている。

- ・啓発の対象者や対象年齢については要検討

③ 支える医療の中核づくり 地域包括支援センターと病院との連携強化

- ・カンファレンスの開催は増えてきているのか

- ・家庭訪問時は民生委員も協力したい、必要時は見守り活動を行う。民生委員を巻き込むよう行政の仕掛けづくりが必要ではないかな。医療機関や地域包括支援センターと情報共有することで民生委員活動もしやすくなる考える。また、民生委員だけではなく若い世代も含めみんなを巻き込む活動が大切である。

- ・子どもによる高齢者訪問により高齢者も元気づく考える。

(行政から今後の取組内容について)

カンファレンスの実施率は県平均に比べ高くなってきた。令和2年度はカンファレンスの実施率にとられるのではなく、退院後に疾病悪化や生活機能の低下を防ぎ自立した在宅生活が継続できるよう、民生委員の協力も得、退院調整が行われない概ね80歳以上の高齢者のみ世帯に対して地域包括支援センター職員が訪問等で支援を行う。

④ 今後、新たに有効と考えられる施策

■介護予防の強化

- ・もっと身近なところに通いの場があるとよい
- ・通いの場のマッピングはどうか
- ・空き家の利用も有効ではないか
- ・毎日常時開いており気軽に集える場があるとよい
- ・地域性はあると思うが、ご近所のなじみの関係は薄いのではないか
- ・地域の通いの場を選択する人もあれば天満屋や店舗棟のフードコートでなじみとなることもよいのではないか

(行政から今後の対応について)

- ・通いの場の拡大については、心身機能の維持向上に重きを置いた「元気もりもり体操」自主グループ立ち上げ・継続支援を実施。
- ・通いの場のマッピングやリストについては「元気もりもり体操」自主グループのみ、今後リスト化を検討

■認知症施策の推進

- ・認知症の相談窓口が明確でない
- ・認知症介護家族への対応はどうか
- ・従来のサポーターに対しても講演会への参加してもらう等役割を持ってもらうとよい
- ・上級サポーターの役割を明確化してほしい

(行政から今後の対応について)

- ・今までは認知症サポーター養成に重点を置いてきたが、令和2年度は休止し、役割を持ちリーダー役となる上級サポーターを養成し対応予定
- ・認知症ケアパスの活用や家族教室の実施
- ・認知症初期集中支援チームについては特に意見なし

(2) 第8期介護保険事業計画について

- ① 第8期介護保険事業計画について
- ② 第7期介護保険事業計画の進捗状況について

○ 特に意見はなし。